

第4節 観光

現状と課題

観光の振興は、多くの人々の来訪によってまちに賑わいと活気をもたらすだけでなく、本町の知名度も向上し、住民のまちに対する愛着や誇りの醸成、さらには地域産業の振興にも優れた効果が期待できます。

本町には、弥生時代を代表する唐古・鍵遺跡や桃太郎伝説をはじめ、有形・無形文化財の宝庫であり、特に伝統行事の祭祀には町内外からの参加者も多く、学術研究やコミュニケーションの場として重要な役割を果たしています。また、空き店舗を利用し、平成16年にオープンした観光ステーション「磯城の里」は商工会・観光協会が連携し、商工業のPRと観光案内等を行っております。

今後、余暇時間の増大などに伴って、ゆとりやうるおいを求める傾向がますます強くなることが予想される中で、観光・レクリエーションの分野における施策の充実が求められています。そのため、町内各地にある観光資源のネットワーク化を図り、付加価値を高めるとともに、情報提供の迅速化や、広域的な連携を図りながら、観光資源の有効活用を進める必要があります。

観光

集客力の向上

自然資源や歴史・文化資源の保全と活用

広域連携による観光資源の活用



施 策

1. 集客力の向上

①観光ステーションの活動支援

商工会・観光協会が連携し、商工業の振興と観光資源の開発の取り組みに協力し、まちの活性化の促進と集客力の向上を図ります。

②商工会などへの特産品開発支援

観光客の土産品が少ない現状であるため、地域の産物、産業を活用した特産品の開発に取り組む商工会などの団体に対し支援を行います。

③イベントの開催

関係団体との連携により、各種イベントを積極的に取り組むとともに、町内外との交流を進め集客力の向上を図ります。

④観光情報の収集発信

ホームページや観光パンフレットなどを通じて、唐古・鍵遺跡など貴重な観光資源を全国に向けて情報発信することにより、本町の特色や魅力を紹介します。

2. 自然資源や歴史・文化資源の保全と活用

①観光資源の保全

町内の自然、歴史・文化は貴重な観光資源であることから、地域住民に対しても保全意識の高揚を図ります。

②観光ボランティアの育成

町内には、自然、歴史・文化の観光資源が多数潜在しています。これらを掘り起こすとともに、わかりやすく説明できる「観光ボランティア」を更に強化・育成し、集客力の向上を図ります。

3. 広域連携による観光資源の活用

奈良県には多くの仏教建造物などがあり、全国有数の観光資源の宝庫といえます。

平成22年に開催される平城遷都1300年記念事業など奈良県との連携を図り、来県者を本町に導くための地域の諸資源を活用した新たな交流機会（イベント・コンベンション）の創出に努めます。また、近隣市町村に点在している歴史・文化遺産のネットワークを構築し、観光客の誘致に努めます。